

《 諫 干 だ よ り 》

.....◆◆◆2007/2/1◆◆◆

◆◆◆目 次

- ◆諫早湾干拓事業にかかる最近の動き
- ◆トピックス
 - ◇諫早湾干拓地営農研究会の開催について
 - ◇九州地区JA営農指導員体験交流集会の開催について
 - ◇テレビ生出演による「知事が語る 今年の長崎県」について
- ◆お知らせ
 - ◇諫早湾地域まちづくりシンポジウムの開催について
 - ◇諫早湾周辺地域環境保全型農業推進フォーラムの開催について
- ◆総合農試干拓科だより(大型機械の実証試験(バレイショ収穫作業の現地試験))
- ◆九州農政局干拓事務所通信(排水機場及び排水路)
- ◆九州農政局通信〔農地・水・環境保全対策(複数の集落にまたがる活動組織の再編成)〕
- ◆その他(意見、提案の募集)
- 編集後記

◆◇◇諫早湾干拓事業にかかる最近の動き.....

- 平成19年1月16日(火)
□諫早湾干拓地営農研究会が開催された。
- 平成19年1月17日(水)・19日(金)
□知事がテレビ生出演により今年の長崎県について語った。
- 平成19年1月25日(木)～26日(金)
□九州地区JA営農指導員体験交流集会が開催された。
- 平成19年2月4日(日)
□諫早湾地域まちづくりシンポジウムの開催(予定)
- 平成19年2月20日(火)
□諫早湾周辺地域環境保全型農業推進フォーラムの開催(予定)

◆◆◆トピックス

◆◆◆諫早湾干拓地営農研究会の開催について

諫早湾干拓地営農研究会が、1月16日、諫早市で開催されました。この研究会は、諫早湾干拓地で営農を希望する県内の10法人、県外1法人、県外1農家で構成し、昨年5月に設立され、諫早湾干拓での営農上の課題について研究、検討を行うことを目的にされており、今回で4回目になります。

この日の研究会では、県農産園芸課の田中主査、(社)長崎県食品衛生協会の山喜課長、川端主任を講師に長崎県特別栽培農産物認証制度、長崎県GAP、農地・水・環境保全向上対策など、環境保全型農業全般に関わる研修を行いました。

研修の中で、特別栽培農産物の細かな基準への質疑、認証コストへの質問等がなされ、環境保全型農業に関する理解が深まりました。

研修終了後、昨年12月25日に研究会から諫早湾干拓室長に提出された「諫早湾干拓地における営農に関する意見書」についての報告と、追加して提出する意見書(第2弾)についての協議が行われました。

平成20年4月の営農開始まで1年余、今年の夏には公募が始まることになっており、営農を希望されている研究会のメンバーは具体的な営農計画の策定に向けて最終段階に入っておられるようでした。



長崎県特別栽培農産物認証マーク

◆◆◆テレビ生出演による「知事が語る 今年の長崎県」について

1月17日(水)にNBCあっ!ぷる「Nagasaki生き生き体験」において、また、19日(金)にはKTNできたてGopan「元気いっぱい!長崎ひと物語」において知事がテレビ生出演をして、今年の長崎県について語りました。

このなかで、諫早湾干拓事業についても述べられ、平成19年3月で99%の進捗となり、平成19年度の事業完了に向けて順調に工事が進んでいること、諫早湾干拓農地での農業を長崎県における「21世紀の農業モデル」と位置付け、環境と調和のとれた先進的な農業を展開し、安全・安心な農産物を提供する一大産地の形成を目指すこと等説明されました。

また、干拓農地の試験栽培でできた現物の農作物を目の前に、イチゴは「さちのか」という品種で、甘みと酸味のバランスが絶妙なこと、トマトは「麗容」という品種でミネラル分の多い干拓農地の特徴を引き出せるよう取り組んでいること、カーネーションは「ピンクバーバラ」という品種を中心に20種類を試験栽培していること等紹介されました。

◆◆◆九州地区JA営農指導員体験交流集会の開催について

九州地区JA営農指導員体験交流集会在1月25~26日の2日間、長崎市及びに諫早市で開催され、26日には諫早湾干拓での現地研修が開催されました。

この会は、地域農業振興の課題解決や今後の農業の取組方針の確認、担い手の確保等について研修するのが目的で、2日目の26日は、約90名の九州各県の営農指導員が諫早湾干拓の研修を行いました。

諫早湾干拓地の事業の進捗状況、畑地の整備状況、総合農試干拓科における試験研究の成果等の説明を聞き、熱心に質疑が交わされ、有意義な現地研修となりました。



◆◆◆お知らせ◆◆◆

◆◆◆諫早湾地域まちづくりシンポジウムの開催について◆◆◆

諫早湾干拓事業によって生まれる自然干陸地の活用策を探る「諫早湾地域まちづくりシンポジウム」が2月4日午後1時から諫早市高来町の高来ふれあい会館で開かれます。

本シンポジウムは諫早市議会諫早湾地域振興調査特別委員会の主催で開催されるものですが、干陸地や潮受堤防、水辺空間などの新たな地域資源を有効利用するための方策を住民とともに考えるのが目的です。

本有効利用について関心がある方の多数のご参加をお待ちいたしております。

【日 時】 2月4日(日) 13:00～16:00

【場 所】 高来ふれあい会館(諫早市高来町)

(県営バス ふれあい会館前バス停下車)

◆◆◆諫早湾周辺地域環境保全型農業推進フォーラムの開催について◆◆◆

諫早湾周辺地域の環境保全型農業を推進し、ひいては諫早湾干拓調整池の水質保全に結びつけることと、諫早湾干拓地で行われる環境保全型農業と一体となった農業を推進することを目的に、「諫早湾周辺地域環境保全型農業推進フォーラム」を開催いたします。

環境保全型農業に関心がある農業者等の皆様の多数のご参加をお待ちしております。

【日 時】 2月20日(火) 13:30～16:00

【場 所】 ながさき看護センター(諫早市永昌町23-6)

(JR諫早駅から歩いて約15分)

営農試験 Now

干拓地における大型機械の実証試験(バレイショ収穫作業の現地試験)

長崎県総合農林試験場 企画経営部干拓科
宮寄朋浩

諫早湾干拓地では、1筆6 ha(小江干拓地は3 ha)の圃場を活かした大規模営農が計画されています。今回はバレイショの大規模営農に欠かせない収穫機(ポテトハーベスタ)について試

験を行いましたのでその結果を報告します。

春バレイショの収穫は茎葉処理、マルチはぎ・回収、イモの掘り上げ、回収といった工程がありますが、事前の作業は県内で一般的に行われている歩行型茎葉処理機で茎葉の抜き取ったあと、手作業でマルチをはぎ取り、マルチ回収機で巻取りを行いました。今回は3～5 ha の中規模経営を想定した、中型のポテトハーベスタを使用し試験を行いました。

供試したポテトハーベスタは 60 馬力以上の大型トラクタに取り付けます。トラクタ後部の3点リンクに取り付け、PTO軸から動力を取り出します。北海道では比較的小面積の圃場用として用



いられています。収穫方法は畝をまたいだ状態で走行しながら掘り取ります。掘り取られたイモはコンベアで運ばれ選別部に送られます。ハーベスタの上では選別ローラによる荒選別のほか、作業者が2人乗ることができますので、作業者によるイモの選別が行えます。選別されたイモは収穫タンクに集められます。収穫タンクには約 500kg の収穫物が入り、満タンになるとタンク内のコンベアで別の大型コンテナやトラックなどに移すこともできます。

写真1 トラクタ+ポテトハーベスタ

10 aあたりの作業時間は 3 人作業で 4.2 時間です。これは長崎県内で一般に行われている歩行型ディガでの掘り上げと、手作業によるコンテナ入れを行った場合が 4 人作業で 10a あたり 3時間半程度になりますので、その場合と比較すると約 1.2 倍の作業時間がかかるといえます。

しかし延べ作業時間(実作業時間×作業人数)では慣行が 14 時間に対し、ポテトハーベスタが 12.6 時間ですので差は小さいといえます。また、手作業でのコンテナの積み下ろしができないことや、すべて機上での作業ですので作業のきつさは大幅に改善されるといえました。

さらに機械収穫で気になるのはイモの傷や皮むけですが、この機械では慣行の作業と比較して同程度でした。

春バレイショの収穫時期は5月中旬から6月上旬の梅雨前の雨が多い時期に行うこととなります。干拓地の土は重粘土でありイモに土が着きやすいためイモと一緒に土も入ってしまいます。そのため収穫後に別作業で土落しが必要になることは避けられません。そのほかにも、2S以下の小さすぎるイモはコンベアの間隙から落ちてしまう回収ロスも出ました。



写真2 作業の様子

今回試験を行ったポテトハーベスタは、干拓地での営農で十分使えることがわかりましたが、

さらに収穫作業の効率化を図るには機械の改良に加え、大型コンテナを使用した輸送や出荷方法についても検討が必要です。また、小イモの割合を少なくしたり、イモへの土の付着を少なくするような栽培技術の開発・改良、大規模圃場向けの茎葉処理機やマルチはぎ取りや回収機の現地試験についても取り組んでいきます。

型式	全長(mm)	全幅【作業時】(mm)	全高【作業時】(mm)	重量(kg)
SS-1	2540	1,960【3,185】	2,055【2,055】	740
掘り取り幅(mm)	タンク容量(m ³)	排出高さ(mm)	所要人員	けん引用適応トラクタ(PS)
560	0.8	1,975	3名	60以上

注) サンエイ工業カタログ表より記載

供試機械	サンエイ工業
	SS-1
作業速度(m/s)	0.12
作業有効幅(m)	0.70
作業時間(時間)	
作業	1.67
旋回	0.17
調整	0.09
補給	0.12
合計	2.04
有効作業量(a/時間)	3.0
圃場作業量(a/時間)	2.4
圃場作業効率(%)	81.8%



写真3 収穫に用いた大型コンテナ(500kg)

◆◇◇九州農政局干拓事務所通信(排水機場及び排水路)

1. 排水機場

内部堤防で囲まれた農地の排水を行うため、排水機場を設置しています。

中央干拓地は、農地側の計画内水位が調整池管理水位の(一) 1.0m より低いことから、ポンプによる機械排水を行う中央排水機場を設置しています。

中央排水機場は約 600ha の農地を対象に、常時排水用として口径 600mm のポンプ 1 台と洪水排水用として 1,650mm のポンプ3台を設置しています。

小江干拓地は、農地側の計画内水位が調整池管理水位の(一) 1.0m より高いことから、自然流下方式の排水樋管を2箇所設置しています。



中央排水機場



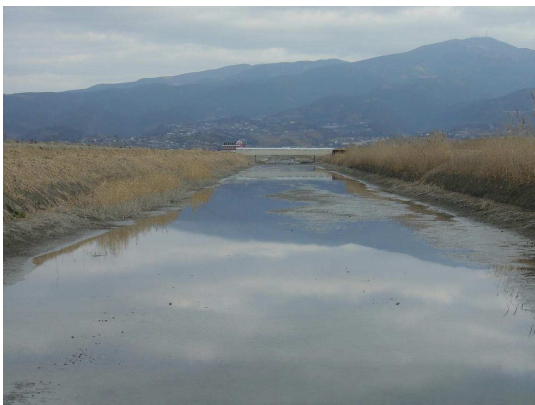
小江排水樋管

2. 排水路

ほ場での降雨は小排水路を通じて支線排水路、幹線排水路を流下し、中央排水機場から排水されます。

中央干拓地の東西方向に設置している支線排水路が4路線、延長約9 km あり、支線排水路の水を南北方向で受ける幹線排水路は1路線、約2 km 設置しています。

一方、小江干拓地では、ほ場での降雨は支線排水路2路線、約 2.3km を流下して、排水樋管から自然排水されています。



幹線排水路



支線排水路

排水機場及び幹・支線排水路の設置により、大雨時(3日間連続雨量 492 mm)にも対応できるほ場となっています。

◆◇◇九州農政局通信〔農地・水・環境保全対策(複数の集落にまたがる活動組織の再編成)〕

今回は、水田地帯の具体的な活動計画として、従来の集落の枠組みを超え、複数の集落にまたがる活動組織を再編成し、取り組むことにしている熊本市天明中央地区の事例を紹介します。

【地域の概要と取組の経緯】

天明中央地区は、熊本市の南西部に位置する有明



海・緑川に面した水田地帯で、温暖な気候のもと、米と施設園芸(メロン・ナス・トマト等)複合経営が盛んに営まれています。近年、周辺の市街化により混住化が進んでいます。



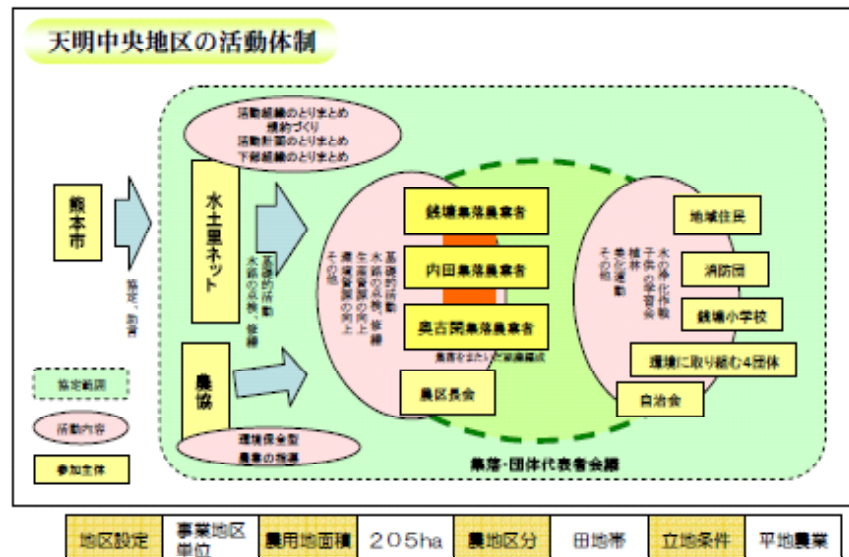
水質浄化のための炭焼き

従来から、地域全体で水路や農道などの保全活動は行われてきていましたが、農業者の高齢化や住民の権利意識の増大に伴って、集落機能が低下し、活動の円滑な実施が年々困難になってきています。

そこで、今回の農地・水・環境保全向上施策を地域による管理の復興の絶好のチャンスとし、複数の集落にまたがる活動組織を再編成し、水土里ネットやJAの協力を得て、農業者・地域住民の連携による管理体制を強化を図ろうと考えています。

【活動組織の特徴】

天明中央地区の活動組織の特徴は、複数の集落が連携することにより、自治会、地元小学校など多様な構成の活動組織となり、子供の学習会など多彩な活動が計画可能となったところと思われます



【実施計画】

右の活動計画の特徴に示すように、核となる活動は、農業用水の地域用水機能(防火用水・生活用水・ホタルの生息)の増進、水質浄化、除草剤を使わない水路法面の草刈り等の環境保全活動を進め、地域の農漁業の共生を図る計画です。

活動計画の特徴



写真3 収穫に用いた大型コンテナ(500kg)

◆◇◇その他(意見、提案の募集).....

～皆様のご意見をお寄せ下さい～

定期的に、諫早湾干拓室からのお便りを差し上げているところですが、お知らせの内容その他につきましてのご意見やご要望等ございましたら、諫早湾干拓室までお寄せ下さい。

なお、今後、お便りを差し上げる場合にEmailでの送付をご希望の方はメールアドレスをお知らせ下さい。

送付先 〒850-8570(住所記載不要) 長崎県農林部諫早湾干拓室
(TEL 095-895-2051 FAX 095-895-2595)

Email s07050@pref.nagasaki.lg.jp

お願い Emailでご意見やご要望等をお寄せいただく場合には、恐れ入りますがメールの件名を諫干だよりで設定し送信をお願いします。

●編集後記

農林水産省は、「多少割高でも安全な食品を求めたい」とする消費者のニーズの高まりを受けて、有機農業推進へ本腰を入れ、その基本方針の骨格を明らかにしました。内容は「相談窓口の設置」や「害虫駆除などで官民の研究強化」等であります。

農林水産省が有機農業推進について包括的な方針を策定するのは初めてだそうです、それだけ有機農作物に対する高い評価を消費者がしている気運の顕れだと思えます。

諫早湾干拓農地では、長崎県特別栽培農作物若しくはJAS有機農作物の認証取得を目標とした環境保全型農業の推進をすることとしておりますが、これにより、安全安心な農作物として諫早ブランドができるよう目指していきます。